

虎溪山

永保寺(臨濟宗)

鎌倉期末、夢窓疎石ら一行がこの地の深山幽谷に魅せられて庵を結んだのが始まり。開山は疎石の法弟仏徳禪師。開基は土岐頼氏、室町時代には30余僧坊があったと言う。庭園(國名勝)は夢窓疎石の作庭という。土岐川の清流、奇岩を借景としている。国宝、観音堂、開山堂



元屋敷窯跡

加藤景延が築いた美濃最古の連房式登窯跡。“織部焼”きを生み出した窯跡。景延は天正2年(1574)尾張から移住し、久尻に窯を開き美濃焼きの基礎を築いた加藤景光の長男。唐津、備前で進んだ陶製法を学び、美濃焼きを発展させた。



下街道: 多治見市前畑—生田峠—土岐市肥田

高山宿

名古屋から運ばれる塩、木綿、藍など。美濃で生産される焼物。木曾からの木製品の継立場として栄えてた。“美濃じゃ高山、尾張じゃ小牧、人に情けの無いとこじゃ”と唄われるほど周辺の村々と争い継立ての権利を争ってきたという。



高山城

土岐市街並みが一望できる高台(麓との高低差57M)。一説によると高山伊賀守光俊、平井宮内少輔光行らが城主。天昇2年(1574)光行の子平井頼母光行の時甲斐武田勝頼に攻略され、関ヶ原合戦の時東軍の妻木勢により落城。

南宮神社(祭神金山彦命)

境内の石造の狛犬(吽形)は中国宋代のもの全国的にも珍しい

乙塚古墳

墳丘、直径27.3m、高さ6.6mの円墳。第12代景行天皇の泳宮行幸の時に見初められた八坂入彦命の弟姫が埋葬されているとの伝え。



中山神明社(祭神天照大神)

創建年代不詳だが天正11年(1583)再建の記録残る。伝えによると日本武尊が東征を終え、信濃神坂からの途中、激しい腹痛に遭い峠下の熊野神社で休むと夢の中に「老杉、老松の森がある山の中の岩境にこもり湧泉の水を呑むがよい」とのお告げがあったので侍者に探させあったのでそこに神明を祭祀してその水を呑むと明方には腹痛が治ったという。



西浦公園(庭園跡)

西浦円治(1806-84)は江戸時代からの豪商陶器商であった。自ら西浦焼きと呼ばれる陶磁器の生産するなど美濃焼きの品質向上と名を世間に広めることに尽力した。ここに江戸時代末期に造られた庭園があった。明治13年6月には明治天皇巡行の行在所となる。



多治見國長邸址

國長は、美濃守護土岐頼貞の同族。正中元年(1324)後醍醐天皇の鎌倉幕府討伐に対し天皇側につく。事前に事が洩れ、六波羅探題の軍に攻められ非業の死を遂げる(正中の変)。



多治見橋

本格的な橋が架けられたのは明治13年長さ110m巾4mの板橋。それまでは湯水期仮橋、雨期船渡し。明治19年西浦円治が自己資金で造る。現在のものは昭和11年のもの



多治見駅

